

## 第6回産業建設常任委員会会議録

- 1 開会日時 平成25年7月26日（金）午前10時0分
- 2 閉会日時 平成25年7月26日（金）午前11時46分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員  
4番 保田 守君      6番 治徳 義明君      8番 金谷 文則君  
12番 山下 浩史君      15番 岡崎 達義君      18番 小田百合子君
- 5 欠席委員  
な し
- 6 説明のために出席した者  
市長 友實 武則君      副市長 安井 栄一君  
総務部長兼 池本 耕治君      産業振興部長 馬場 広行君  
総合政策室長  
建設事業部長兼 田中 富夫君      農林課長 若林 毅君  
建設課長  
商工観光課長 奥田 吉男君      建設課参事 中川 裕敏君  
都市計画課長 塩見 誠君      上下水道課長 荒島 正弘君  
赤坂支所 高橋 浩一君      熊山支所 岩本 良彦君  
産業建設課長  
吉井支所 奇峯 正二君      産業建設課長
- 7 事務局職員出席者  
議会事務局長 富山 義昭君      主 事 横谷 亮徳君
- 8 協議事項 1) 平成25年度事業について  
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（山下浩史君） おはようございます。

ただいまより産業建設常任委員会を開会いたします。

開会に先立ち、市長よりあいさつをお願いいたします。

市長。

○市長（友實武則君） 産業建設常任委員会を御多用中、またお暑い中にもかかわらず開催いただきまして、ありがとうございます。

本日の協議事項といたしましては、平成25年度事業の状況について及びその他の案件を御協議していただくこととしております。

後ほど担当より詳しく御説明をさせていただきますので、よろしく御審議のほどお願いしたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

○委員長（山下浩史君） ありがとうございます。

それでは、これから協議事項に入ります。

第1番目、平成25年度事業について執行部から説明をお願いします。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 協議事項の1ということで、25年度事業について、この件につきまして平成24年度の補正予算をしていただきました緊急経済対策の事業、これについて説明をさせていただきます。

この件につきましては、経済対策ということで補正のときに説明をさせていただいております。金額についても提示をさせていただいておりますけれど、詳細についてまだ説明ができておりませんので、地図等を使いまして説明をさせていただきます。

もう一件といたしまして、河本地区の土地区画整理事業について、これも同様、委員会では概要について説明をさせていただいておりますけれど、現地査察もしていただいた状況ではありませんけれど、さらに詳細について説明をさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

○建設課参事（中川裕敏君） 委員長、建設課参事、中川です。

○委員長（山下浩史君） 参事、中川。

○建設課参事（中川裕敏君） おはようございます。

今、部長から説明のありました、まず緊急経済対策について建設課のほうから説明させていただきます。

委員会資料、建設事業部の1ページをお願いします。

こちらにまず防災安全社会資本整備交付金事業で橋梁修繕ということで5橋、補正を行っていただきましたものについて、まず山陽団地にかかるもの3橋の歩道橋を載せております。

この歩道橋につきましては、まず塗装が相当傷んでいるもの、それと手すり、通路に係る通路面の路面の傷んだもの等がございますので今回工事を行います。まず左上、表にあります山陽1号橋、これは地図で言いますと岩田側の一番南の、地図で言いますと下に載っております位置にするものですが、これにつきましては橋台、地履が一部傷んどりますので補修をするものと、階段部と通路面の路面が傷んでる部分を樹脂モルタル等で補修を行います。せえと、高欄につきましても一部変形等がしておりますので、それについての補修、それと全面の塗装の塗りかえ、これが約800平米足らずでございます。これについて一競争入札になりますので、7月29日の開札予定で現在進んでおります。

続きまして、山陽2号橋、これが地図で言います真ん中の橋になりますが、これにつきましては橋台の補修と地履の補修ということで一部傷んだ部分の補修、それと通路の路面が同じく傷んでおりますので樹脂モルタル等で補修を行います。せえと、塗装につきましては約1,000平米、塗りかえを行います。これも同じく一般競争入札になりますので、7月29日の開札予定にいたしております。

続きまして、山陽3号橋、一番上の北側に位置します橋梁ですが、これも橋台、地履、高欄について一部傷んだ部分の補修と塗装の塗りかえが700平米足らずを行います。これにつきましては指名競争入札で行っておりますので、7月5日契約で現在、サンベルコのほうと交通規制等の警察協議及び地元との調整を行い、間もなく現地のほうへ足場組み立て等から入る予定にいたしております。

以上がまず山陽団地の3橋です。

1ページめくっていただき、2ページをお願いいたします。

これにつきましては一般車道の橋梁でございますが、熊山にかかる庄前橋と和田成橋の2橋で、上に載っております左側の沢原14号線にかかります庄前橋、これにつきましては橋台補修、防護柵補修を一部を行うものと伸縮装置設置工ということで、漏水が激しくなり、橋自体がこれによる影響で大分傷んどります。杓座等も傷んどりますので、その辺の伸縮装置を取りかえ、それと杓座につきましては当時の設計値と今の耐震設計を行いますと狭いとなつとりますので、拡幅を行います。それとあと、塗装の塗りかえを同じく100平米余り行います。

続きまして、右側の奥吉原3号線にかかります和田成橋につきまして、これも橋台補修と防護柵補修を一部行うものと、伸縮装置設置工となつとりますが、済いません、これにつきましては、この橋梁につきましては健全な伸縮装置ということで、今回のこの工事からは外しとります。申しわけございません。それと、杓座につきましても同じく拡幅を行います。それと、支承塗装の塗りかえを、130平米足らずの塗りかえを行います。

以上が橋梁修繕の5橋についての説明です。

1ページめくっていただき、3ページをお願いいたします。

舗装修繕を市内全域について行うということでお願いいたしましたが、この図面で見ま

す赤い色、青い線が引いてありますものがこの事業に乗れるかどうかということを今回調査をいたしとります。その青い線で引いた部分の調査以外の赤い部分が今回事業化、この国庫補助事業に乗れるということで今、事業のほうを進めております。

まず、ひび割れ率が40%以上必要だということで調査を行いました、我々まずこの路線をするということで現地のほう見ましたが、思った以上に40%という基準が厳しく、当初思っていた部分まで達するところがいかない部分もございます。それで、現在、これ以外に追加してまた調査を行い、舗装修繕のほうを行う予定をいたしとります。せいで、2回目につきましては両団地を主に走りますが、桜が丘と山陽団地を主に調査しますが、それ以外に現在、支所のほうと調整をしてどこを調査するかを決定いたしとります。せいで、年度内にて全て行う予定にいたしとります。

また、この地図を見ていただきますと、熊山地区につきまして調査対象が狭く思えますが、熊山につきましては下水道工事に伴う舗装修繕が結構進んだものと、桜が丘につきましては市へ引き受けをするときにオーバーレイを全面かけてもらったという経緯がありますので、そういう経緯からひび割れが40%というのが達成が難しいと。それと、桜が丘等ではオーバーレイをかけたところがぼろぼろと剥がれたような部分ございまして走行性に問題がありますけど、そういうものについてもこの事業では舗装修繕することができませんので、現在の状況をどういうものであるかということを探り、今後の国庫の事業がそういうものについてもつくようになればすぐ対応できるような方向で今回のこの事業の中での委託事業をいたしたいと思っております。

以上、建設課土木建設班に関する事業説明です。

続きまして、1ページめくっていただき、4ページでございますが、農地整備班の担当いたしとりますため池一斉点検、震災対策農業水利施設整備事業について説明させていただきます。

これにつきましては、平成24年度の大型補正による箇所では現在、4,010万円の事業費をもちまして217カ所点検を行うということで発注を行い、現在、現地のほうをはかっております。その点検内容につきましては、まず土質の判定、横断測量、現地のほうの構造的な危険度、堤体の沈下であるとかクラック、そういうものを現地ではかりまして、内容といたしまして水利計算であるとか簡易氾濫解析、活断層との関係について調査を行い、地図へ落とし、今後のため池改修等が必要な場合の参考にする予定にいたしとります。せいで、217カ所、繰越分で行う予定でしたが、全箇所、当初受益2ヘクタール以上の点検を行う予定、思っていたものに足らなりましたので、今年度950万円を追加割り当てをいただき63カ所を行う予定にいたしとります。この事業費につきましては、9月の補正予算で計上させてもらう予定にいたしとります。

なお、これにつきましても24年度の繰越事業と同じく国庫補助が100%つくということで

今、進んでおります。

先ほど申しましたが、現在の状況といたしまして、24年度の繰越分は発注と現地調査は完了いたしておりますが、机上分、あとの計算等につきまして現在進めております。それと、そのほかにため池安定解析業務と農道橋の点検につきましても繰越事業ということで補正をいただいとりますが、現在どのように行うかを設計書をつくりまして県のほうの審査を受け、委託内容のほうを精査いたしとります。

以上、建設課からの事業報告です。

○委員長（山下浩史君） ありがとうございます。

ただいま説明が終わりましたが、これについてそれじゃあまず質疑なり質問がありましたらお願いをいたします。

ちょっとやりようで。ちょっと行ってくる。

〔委員長交代〕

○委員（金谷文則君） はい。

○副委員長（保田 守君） はい、金谷委員。

○委員（金谷文則君） ちょっと質問をさせていただきます。

平成24年度の防災の安全社会資本整備交付金事業（補修修繕）箇所図というこのページなのですが、これでちょっと教えてください。

ひび割れ率が思ったほどないということなんですけど、ひび割れ率の基本的な考え方というのはどういうことなのか教えてくださいということと、それから砂川の堤防がかなり傷んでると思うんですが、これは県のことだろうと思うんですけど、その辺のことはどういうふうにお考えなっておられるのか。

それからもう一つ、一応全て調査を行うということをおっしゃってられましたけど、全ての調査、道について各支所でたしか調査を行われるということでしたが、今どの辺まで進んで、各支所3つあると思いますが、あとどのくらいでそれが調査が終わるのか、その辺のことをこのページについてお聞きをしたいと思います。

それから、次のページで、震災のため池の一斉点検で、国庫補助100%で2ヘクタール以上の受益面積を持つところについてということでしたが、それ以下の当然池があるとは思いますが、それについてはどのように対応をされておるのかお知らせをいただきたい。

それから、点検内容の中で一番最後に活断層の情報というところで、2行目かな、活断層の地図等にため池の堤頂の方向線とため池までの距離を100メートル単位で記入するというふうなことでありますが、赤磐市内の活断層の地図、これについてお知らせをいただきたい。

とりあえず、それだけをちょっとお願いをしたいんですが、お答えをお願いします。

○副委員長（保田 守君） はい、どうぞ。

○建設課参事（中川裕敏君） はい、建設課参事、中川です。

○副委員長（保田 守君） 中川さん、どうぞ。

○建設課参事（中川裕敏君） ただいまのことに关しまして、まずひび割れ率の調査ですが、まず簡単に言いますと、全くないのがゼロ%は当然なんですけど、大体のひび割れが亀の子状に入ったものがひび割れとして入ります。そういうものが全面に広がった場合には当然100%になるのですが、それが健全な部分とそういう亀の子状になったひび割れが入ったものとの部分がどうかということで、単純に何%というのを一般的な写真等で提示してもらったりしますので、それを参考に現地を目視的に判断していくということで決定いたしております。

〔委員長交代〕

○委員（金谷文則君） 一つずつ行きましょうか。一つずつお答え。済いません、じゃあちょっと質問をもう一度。

○委員長（山下浩史君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） 今、ひび割れ率の説明をいただいたんですけど、例えば道路ってずっと延長があるじゃないですか。その幅もあるし、どこの場所でどういうふうに捉え方、例えば1平方メートル当たりとかどういう基準でどこ、ここを見れば多分こういう面積で見たら全部ひび割れとるってということもあるかもしれない。やはり100メートルのところでは何%がどうか、そういうことがあるんじゃないかと思うんですけど、そこら辺をちょっと教えてください。

○建設課参事（中川裕敏君） はい、委員長、建設課、中川です。

○委員長（山下浩史君） 中川さん。

○建設課参事（中川裕敏君） まず、測定につきましては、5メートル単位で現地の写真を撮影いたしとります。その5メートル単位で何%であるかをまず決めまして、この3ページに載っております地図の赤い部分、これは100メートル単位で今度それを全て置きかえたときに、5メートル単位を全て足し合わせたものを100メートル単位にしたときに40%以上あるのがこの赤い部分になります。それでいきますと、非常に採択する範囲が狭くなりますので、もともと施工性を考えて100メートルで見とりましたが、再度10メートル単位でどういうものであるかということを見直しまして、10メートル単位で5メートル単位の部を見直していくと。それで、施工をするように決めておりますので、基本的には5メートル単位と。幅員につきましては、舗装のある部分全てを全部と見とりますので、端にもし入っていない部分は当然その40%から、クラック率から落とされるということで、そういう部分が結構今回の測定の中から40%を切る原因にもなってるものと思われま。

○委員長（山下浩史君） よろしい。

○委員（金谷文則君） はい。

○委員長（山下浩史君） はい、金谷委員。

○委員（金谷文則君） 全部調査されて、5メートル単位で全部写真を撮ってっていう、本当

にそんなんされてるの、町道、市道、県道。

○建設課参事（中川裕敏君） はい。車に、ワゴン車にカメラつきの……。

○委員（金谷文則君） グーグルアースのあれみたいなやつ。

○建設課参事（中川裕敏君） カメラ、今そうですね、グーグルマップの全方周じゃあないですけど、路面だけを撮影する機械を積んだ車で走っとりますので、データも全てうちのほうへどういう状況か、周りの山であるとか家であるとかも入った状況でデータとして取り込んどります。

○委員（金谷文則君） わかりました。

じゃあ、引き続いてほかの質問の答えをお願いします。

○建設課参事（中川裕敏君） 砂川の堤防の傷んだ部分というのは、舗装修繕に関してじゃなく堤防に関しての……。

○委員（金谷文則君） ほんなら、補修修繕も含めて。

○建設課参事（中川裕敏君） はい。

○委員（金谷文則君） 管理道。

○建設課参事（中川裕敏君） 舗装の傷んでる部分もありますけど、下のやはり堤防が傷んでるということによって発生してると思いますが、県管理の河川につきましては県のほうへ修繕、ここが傷んでるという報告をするのと、県のほうの河川パトロールにもものをもって修繕のほうをやってもらうように頼んどります、その都度ですね。

○委員（金谷文則君） はい。

○委員長（山下浩史君） はい、金谷委員。

○委員（金谷文則君） ちょっと川の件で、今、把握されてる、準備はされてないと思うんですけど、相当河川の堤と、それから堤防の道路、管理道、傷んでると思うんですよ。どこどこどういうふうに把握されとるんか次回で結構ですから一遍出していただいて、多分、市民要求がそれぞれの支所に上がって本所のほうへ上がってまとめられとると思うんですけど、そことの差があっても困りますので、一遍次回にでも知らせていただければと思います。

○委員長（山下浩史君） ありがとうございます。

他に質問は。

はい、はい。

○建設課参事（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 中川参事。

○建設課参事（中川裕敏君） 先ほどのひび割れの全ての調査ということですが、ちょっと言葉足らずでしたが、全て走らせますのは山陽団地と桜が丘について全てまず走らすということをして今回のこの国庫補助に乗す予定にいたしとります。それと、残りのまだ傷んだ部分、目視で傷んだ部分で舗装修繕が必要な部分について、支所と現在どこを測定するかということをお協議

いたしております。

○委員（金谷文則君） それともう一つ、時期。時期的なことが……。

○建設課参事（中川裕敏君） 時期につきましては、ちょっと待ってください。ここで今、設計書ができ上がりますので、この8月中には発注予定にいたしとります。その後、測定をいたします。全て年度内で終わらす予定にしておりますので、早急にする予定です。

○委員（金谷文則君） また、次の機会に質問します。

続いているですか。

○建設課参事（中川裕敏君） 続きまして、ため池に関してですが、2ヘクタール以下のため池につきましては現在、国からも0.5ヘクタール以上から2ヘクタールについてそういう調査を行う必要があるぞということで、現在うちのほうにもいろいろとどれくらいあるかとかということ調査をしております。ですから、今後これが国庫補助事業等に乗るようになりなりましたら、それにあわせて事業のほうをして調査のほうをしていきたいと思っております。そのほかの危険な池につきましては、地元のほうからのそういう報告があったときには即刻現地のほうを調査いたしとります。

○委員（金谷文則君） はい。

○委員長（山下浩史君） はい、金谷委員。

○委員（金谷文則君） 今、280カ所が2ヘクタール以上の受益面積を有した箇所だということ出てると思うんですけど、全体で赤磐市の中のため池の数っていうのがたしか500弱だったか500前後だったと思うんですけど……。

○建設課参事（中川裕敏君） いや、700……。

○委員（金谷文則君） 700何ぼあったのかな。

○建設課参事（中川裕敏君） 足らずですかねえ。

○委員（金谷文則君） 700足らずかなあ。そしたら、かなりの数が小さい池ということで、まだたくさんありますよねえ。大変ですよ。どうされる。

○建設課参事（中川裕敏君） この280カ所も今、ため池台帳に載っておりますため池数につきましては、この24年度に4,010万円という事業費を上げておりますのが401のため池があるということで実際上げとったのですが、国からのお金の国庫補助のつきようがこのような状況になつとりますので、実際のところこれ以上はかる必要がありますが、現在は堤防の高さ、それと下流に家屋等があるかないか、公共施設があるかないかというふうな重要度等、それを加味して重要度のあるものからはかっていったのが280カ所ということにしております。それで、実際に2ヘクタールとため池台帳に載っておりますが、2ヘクタールない池も実際ございますので、その辺も加味してこの数量で現在しておりますが、残りの池についてはやはり今後の国からの補助金をもとに事業のほうを進めていきたいと思っております。

○委員（金谷文則君） 結構です。

次も……。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） はい、田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 当初予定しておりました緊急経済対策、3月の年度末に国のほうから新しい事業としてスタートしとります。非常に国のほうも県のほうもこの調査については見切り発車の部分もありまして、当初、検査項目も1カ所の池、10万円程度の予算をしておりました。さらに、年度が始まりましてさらに詳しい、ここであります活断層であつたり追加項目がふえたということで、1カ所当たり10万円が相当伸びております。したがって、今回の217カ所、さらには追加として63カ所というところになっております。したがって、委員がおっしゃるとおり、まだまだため池については危険な箇所もあろうかと思えます。そういったところについては、今後の国庫補助がつくような状況になりましたら積極的に予算をとっていかうと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（山下浩史君） ありがとうございます。

中川参事。

○建設課参事（中川裕敏君） 委員長。もう一つ、活断層のことで次よろしいですか。

○委員（金谷文則君） はい、お願いします。

○建設課参事（中川裕敏君） ですが、この活断層の赤磐市の分はということですが、現在、県と委託を受けたところとどの地図を使うかということで現在協議しておりますので、赤磐市に実際どこにどうあるかというのをちょっと今、説明することができません。その地図が決まりましたらまた言えると思えます。

○委員（金谷文則君） はい、委員長。

○委員長（山下浩史君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） 活断層の地図含めて前回、去年、ことしかな、一般質問なんかのときでもさせていただいたと思えますし、勉強会も私もやりまして、今、活断層の地図を岡山県で多分これであろうというのも県のほうからもらい、それから岡山大学のほうへも行って確認をしとります。何を今、赤磐市としてはどういうふうにも今まで考えてきてるんですか。活断層の、あとそれから当然そこに入ってるのがわかってるはずだけど、それにかかる池もあるはずですし、何をやってるんですか。そんなんを今、検討しとるん。どういう地図で、誰がそんなことを、今のコンサルか何か知らんけど。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 活断層の示されとる地図というのが、今、入手しようと思ったらたくさん種類があります。そういったとこで、県のほうにどの提示をしとる活断層の図面を活用してやったらええかというようなのを県と今、協議しとるんですけど、県がこ

の地図を使って明記をなさっていう部分が明らかでないので、そういった状況なので今、市と県と受注者のほうでより正確でより実効性のある地図を模索中という部分であります。

○委員長（山下浩史君） はい、金谷委員。

○委員（金谷文則君） 防災対策っていうのは地震があって、例の3・11も含めてそれ以降、緊急な課題として市が取り組まなきゃあかん重要な問題として捉えとるはずです。震災があったから今、何年目たってなのか、まだすぐなのかどういうふうにも思われとんか知りませんが、赤磐市を守るためにどうするかっていうことを市として考えてない。市はこのここに活断層があるからこういうなことをしなきゃあいけないっていうふうなことを考えて動いてるわけじゃないんですか。どういう指針で防災対策、防災の今のマップをつくったりしてやってるんですか、お聞きしたい。市民が4万5,000人もおるのになら、どう考えてるのか。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 防災対策についてお尋ねでございます。

赤磐市の防災計画について説明させていただきます。

昨年の春に南海トラフ巨大地震被害想定が中央防災会議から各都道府県に提示されております。その内容は、かなり深刻な被害を全国的にもたらすということが新聞報道でも何度も出されております。これに関係する都道府県がその情報を受けまして、各都道府県が都道府県版の防災計画を立案するようになります。その中で、国の情報をさらに県下の中で細かく分析して各市町村ごとの被害想定が策定されます。それが今、岡山県のほうで策定中というふうに向っております。その結果を各市町村が受けまして各市町の防災計画、こういったものが策定されます。その情報をもとに各市の防災計画、あるいはインフラの耐震対策等を考えていくと、こういう流れになります。したがって、赤磐市でも赤磐市防災計画を見直す準備をしているような状況であります。

防災計画については以上です。

○委員長（山下浩史君） はい、金谷委員。

○委員（金谷文則君） ありがとうございます。

市長が専門家なんで一生懸命頑張っていただきたいと思いますが、今ある活断層が載ってる地図っていうのがあろうかと思えます。これもできたら今じゃなくても結構ですからお見せいただきたい。何種類かあるはずですから、それをお願いをしときたいと思います。

○委員（治徳義明君） はい。

○委員長（山下浩史君） はい、治徳委員。

○委員（治徳義明君） 濟いませぬ。先ほどの金谷委員とのちょっと関連なんですけど、先ほどのお話聞いてましたら、活断層は赤磐市内にたくさんある地図がいっぱいあって、赤磐市にたくさん活断層がそもそもあるんですか。ちょっと何かお話をお聞きしましたら、地図がたく

さんあって、この活断層、この活断層があるからどれを使うか今、選別中ですよというようなお話でしたけども、非常に私ども、金谷委員さんと1年前からため池の勉強会させていただいたときに、そんなになかったようには気はするんですけど、ちょっとその辺1点確認させてください。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 濟いませぬ、赤磐市の中に活断層がたくさんあるというような表現でなくて、活断層、日本の中にたくさんの活断層があつて、その地図がたくさんあるという意味で、濟いませぬ、申しわけありません。

○委員（治徳義明君） はい、委員長。

○委員長（山下浩史君） はい、治徳委員。

○委員（治徳義明君） 濟いませぬ。関連して、ため池なんですけども、この点検をして、これは耐震とかそういうもんも含めてなんで、僕たちが勉強させてもらったのは、ため池は震災等で液状化現象なんかが起こつて、そういうことでため池が決壊するようなことが多くあると。岡山県は沖積層という基本的に新しい地質なんでその可能性がたくさんあるということであつて勉強させてもらうたことがあるんですけども、そういったことも含めて点検をしてることなんでしょうか、ただ単純に震災等まで含めてないということなんでしょうか、ちよつと教えてください。

○建設課参事（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 中川参事。

○建設課参事（中川裕敏君） 今回のこの点検につきましては、今ほど言われました震災に対してどうなるという点検じゃなく、現状の形状がどうであるか、危険な部分がないか、また土質についても今後の設計のために一部1メートルほど掘つて土をとつて調べているということで、実際の耐震につきましてはため池改修のときにそういう計算をしますので、ここではここまでは結果としては出てまいりませぬ。しかし、先ほど言いましたように断面が不足しているとかクラックが入っているという目視で見るとわかるようなものがございませぬので、もし本当に危険なため池がある場合には地元のほうとも協議して水を落とすのか改修をするのか、そういう判断をしていきたいと思つとります。

○委員長（山下浩史君） はい、治徳委員。

○委員（治徳義明君） 濟いませぬ。いや、結局、南海トラフも30年以内に起こるだろうと、こういうことで震度6ですか、恐らく非常に危険なため池もたくさんあると思うんですけども、私も一般質問等で何度かさせていただいたんですけども、危険なため池等がある場合、本来なら全てきちつと改修すればいいんでしょうけども、一遍にはできないというふうな状況の中で、ハザードマップ等をつくれればいいんじゃないでしょうかということであつて質問させていただ

いた、提案させていただいたこともあるんですが、現に香川県とかいろんな全国的にはそういったため池に対するハザードマップをつくられている県とか市町村あると思うんですけども、そういうお考えはないでしょうか。

○委員長（山下浩史君） 田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） まず、ため池の現状ですけれど、先ほど言われたように防災的な機能を持つため池も確かにあります。ただ、基本的には農業用の水利のための施設ということで、これを改修したりいろいろすることも受益者負担ということがあって、思うように改修が進んでいないのが現状であります。そういったことで、防災的な面でぜひ改修をしないというような池があるならば、そういったことも今後検討していく必要があるかと思えます。

それからもう一つ、ハザードマップというような件です。

今、ハザードマップについては25年、本年度に全ていろいろな網羅をしたようなものを建設課と、それからくらし安全課のほうでどういったハザードマップをつくれればええかというのを現在検討しておりますので、今後そういった委員さんの御意見も反映できるようなハザードマップをつくるように努力していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（山下浩史君） よろしいですか。

ほかには。

○副委員長（保田 守君） ちょっとよろしいか。

○委員長（山下浩史君） はい、保田委員。

○副委員長（保田 守君） ため池が前に使われとって、小さなため池なんですけど、今は使われてないため池で、私が何年か前に穂崎の団地じゃったと思うんですけど、一番奥のほうへ行ったら、大雨が降ったときにそのため池があふれそうになって避難したと。それで、ため池じゃから当然何かに使われとんじゃないですかという話をしたら、ブドウなんかを前あの辺の山でつくられとったときの水を利用したと。今はもう全くその池自体を、水自体を利用しとる人がいないと。ただ、大雨が降ったりしたら非常に怖いんじやと。ほんで、実際にあふれて避難したことがあるということなんです。ああいうのはこの農業用水を確保するため池の土手とかというんとは違くて、地元の人々の要望で見たら、何人かの人に聞いたんですけど、あれを要するに埋めてもらえんじやろうかというふうなことだったんですけど、これもやっぱり雨が降ったりしたら大変その人は怖い目されとるみたいで、一遍調査をしてみてもらえたらなと、また現地は私わかりますから案内しますから。それが、入り口が狭いから、それが工事に何かの土を入れて埋めるといっても難しいなあと思うし、前の水利の関係なんかはどうなっとなかということ自体、私もわからんですし、その辺を調べていただいて、小さなため池なんですけど、何とか安全に下の団地の人が住めるような状況になればと思うんですけど。

○委員長（山下浩史君） はい、中川参事。

○建設課参事（中川裕敏君） 現在言われました使われていないため池につきまして廃止ため池ということで、ため池をなくすということも現在いたしとります。せえで、実際に埋めるであるとか堤防を切って水がたまらないようにするといったことも現在行っている池もございませすけど、基本的に現在じゃあ埋めるのにどのようにして埋めるのかとかという事業がありませんので、危険なため池につきましては樋をあけておく、底樋を抜いておくということをお願いいたしとります。せえで、今後本当に必要でないとなれば、そのような廃止していく方向へも考えていく必要があると思いますので、その辺の実際の小さなため池につきましては全ての情報がないのが現状ですから、そういう情報も今後入手のほうをしていき、全体的にどのようにすればいいかも検討が必要だとは思っています。

○委員長（山下浩史君） 保田委員。

○副委員長（保田 守君） 地元の人にできたらということをお願いされとんで、ぜひ調査だけとりあえず最初にやってほしいと思います。よろしくをお願いします。

○委員（金谷文則君） 済いません、ちょっと一言。

○委員長（山下浩史君） はい、金谷委員。

○委員（金谷文則君） 済いません。先ほどのため池のところで1番に点検内容で出た土質の判定で、1メートルほど天端から掘って、ボーリングしてそういったことを調査するって書いてあるんですけど、堤防を1メートル掘ってどういうことがわかります。1メートル、堤の天端からでしょ。ちょっと教えてください。

○建設課参事（中川裕敏君） はい、委員長。

○委員長（山下浩史君） 中川参事。

○建設課参事（中川裕敏君） 今回、このため池一斉点検の国から提示された資料が1メートルということで1メートルをしとるんですが、その1メートルによってこの池のはがね層が実際に入ってるかということ、その部分での真砂のような形状であるのか、その辺を調べて今後の設計というか、危険度を判定する一部の資料にするということで1メートルを掘るようにいたしており、古い池につきましては1メートル掘れば基本的には満水位には達するような深さというのが決めれると思いますので、その1メートルで今回のその試料については採取できるんじゃないかなと思っています。

○委員（金谷文則君） ありがとうございます。

○委員長（山下浩史君） よろしいか。

○委員（金谷文則君） はい。

○委員長（山下浩史君） それでは、ほかには。

○副委員長（保田 守君） よろしいか。

○委員長（山下浩史君） はい、保田委員。

○副委員長（保田 守君） ちょっと2つほど聞きたいんですけど、山陽団地の中へちょっと

ウオーキングなりジョギングしたら、歩道部分の根がかなり入ってきて、道路の部分よりも歩道の部分のほうが、私自分で感じますのがでこぼこしと思うんですが、あれは対象外ですか。

○建設課参事（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 中川参事。

○建設課参事（中川裕敏君） この事業での舗装修繕には対象外になりますので、危険なところについては修繕等その都度行っていきたいと思っております。それで、現状にも行ってはいたしてもらっております。

○委員長（山下浩史君） よろしいか。

○副委員長（保田 守君） もう一問。

○委員長（山下浩史君） はい、保田委員。

○副委員長（保田 守君） この奥吉原の3号線の和田成橋ですか、これの工事に、ここへ通つるのは水道管か何かなんですか。この水道管はこの足場をするときに一緒に何かをするような、手を入れにゃあならんようなことはないんですか。足場が大変お金かかるもんじゃから、足場を組んだときに管の塗装等いろんなもんがあったら一緒にすれば、完璧なもんならもういらうこともないんでしょうけど、せつかく足場を組んだときに点検ちょっとしてもらって、仮にちょっと手を入れにゃあおえんようなことがあったら一緒にやったほうがいいんじゃないかと思うんです。水道管自体が何にもなければ問題ない話ですけど。調べてみてください、そこら辺を。

○委員長（山下浩史君） はい、中川参事。

○建設課参事（中川裕敏君） 今、御指摘のありましたように、足場を組んだ後、上下水道課のほうへその旨を伝えまして見ていただくのと、広域水道のほうにもなると思いますのでその辺についても行いたいと思いますが、多分健全であるとは思いますが、現場も見ておりますが。

○副委員長（保田 守君） わかりました。

○委員長（山下浩史君） よろしいですか。

他にはないでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（山下浩史君） それでは次に、これで済んだんかな。

田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） はい。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） それでは、河本地区の土地区画整理事業について説明をさせていただきます。

御存じのように、山陽地域は県南広域の区域に入っております。県南広域ということで非常

に規制が厳しく、赤磐市が思ったような土地利用が図れていないのが今日であります。その要因としたら、今回の河本地区を初め岩田とか下市あたりで本来なら宅地化が進んでいなければならない部分がまだ農地のままで残るとるというような現状であります。そういったことで、さらなる開発、土地利用を図るためにも、この河本地区の区画整理については市が積極的に事業を進めたいと考えております。そういった観点から、きょうさらに河本地区の土地区画整理事業について説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○都市計画課長（塩見 誠君） はい、委員長、都市計画課、塩見です。

○委員長（山下浩史君） 塩見課長。

○都市計画課長（塩見 誠君） それでは、資料のほうは産業建設部の資料、先ほどの建設課の続きになりますが、5ページをお開きいただきたいと思います。

河本土地区画整理事業についてですが、これにつきましては5月の当委員会におきまして概要説明及び現地のほうを見ていただきましたが、今回につきましては年度別の概算事業費及び市の支出予定額につきまして御説明をさせていただきます。

まず、左のページでございますが、1番といたしまして土地区画整理事業の収支内訳でございますが、これにつきましては今回、組合の施工ということになりますので、組合の会計という中で運用されるということで御理解いただければと思います。

収入の部といたしましては、保留地の処分のお金、そして後から説明いたします市の助成金、公共施設管理者負担金、これは市道整備にかかわります市の負担金でございますが、このようなもので収入のほうを賄う予定にしております。

一方、支出につきましては、調査設計費、工事費等でございます。

下に参りまして、2番目に年度別の概算の資金計画がございます。これは25年度から29年度までの5カ年間で予定をされています。これは現在、地元の組合におきまして概算事業費を算出をされまして、それに基づいて作成をいたしております。

下に参りまして、まず事業費の内訳といたしまして、調査設計費等がございます。そこに小計、そして25年度から29年度、年度別に幾ら必要かということで記載のほうをさせていただいております。調査設計費につきましては、一番右の欄の中ほどになりますが、合計といたしまして1億1,350万円が合計になります。一方、下に参りまして、工事費でございますが、これにつきましてはの合計といたしまして、これも年度別に記載をさせていただいておりますが、合計、一番右になりますが、2億5,550万円というような概算のほうが出ております。事業費合計といたしまして、先ほどの調査設計と工事費を合計いたしまして3億6,900万円という事業費全体の金額が現在のところこの金額を想定をいたしております。

一方、それにかかわります市の負担金といたしましては、そこに項目がございます助成金、これは補助金でございます。そのほか公共施設の管理者の負担金、これにつきましては土地区画整理法に基づきまして市道のつけかえ等に伴う工事費等に対する公共施設の管理者、すなわ

ち市の負担金でございます。その合計、25年度からそれぞれの金額を書かせていただいております。一番右の一番下の欄になりますが、合計といたしまして1億7,000万円の金額のほうを算出をさせていただいております。下に参りまして、ぽつが2つございますが、その一番下に下水道の整備というのがございます。今回、現在の予定では平成27年度に下水道をここの区画整理の部分に入れるような予定にいたしております。これにつきまして、下水道整備といたしまして市の負担といたしまして9,200万円を今、概算として入れております。今後でございますが、今、25年度の分につきまして2,400万円、金額の市の負担金を記載しておりますが、これにつきましては9月の議会におきまして補正予算を行いたく現在考えております。

今回の市の負担金の財源でございますが、下水道につきましては国庫補助及び起債、その他につきましては起債を充てるという予定にいたしております。この起債の充当率といたしましては、現在のところ90%を予定をさせていただいております。

ページの右に参りまして、先ほど市の助成金というお話をさせていただきましたが、これにつきまして内容につきまして若干説明をさせていただきたいと思っております。

これにつきましては、赤磐市の土地区画整理事業助成規則というのがございます。それによりまして行っております。そもそもの助成の要件といたしましては、都市計画区域内の案件であるもの、そしてそこ、2番目でございます全体の面積が2ヘクタール以上のもの、そして3番目に道路、公園等の公共施設の整備面積の合計が全体の面積の20%以上のものという3つの要件が全て該当の場合の土地区画整理事業に対しまして市が補助するというものであります。ちなみに、3つ目の全体の20%というのがありますが、今回の河本につきましては公共施設の面積は約26%ほどをとっているという形になります。

具体的な補助率でございますが、下のほうに参りまして、(3)に記載をさせていただいております。事業内容といたしまして、事業計画の作成、そして道路の構築、水路等の構築、公園の設置、上水道の設置というような各種項目がございまして、一番右の欄に補助率がございます。10分の3から10分の10という以内の中で運用させていただいております。この規則の運用の中で計算をいたしまして、今回、左の表のとおり市の負担金の積算をさせていただいております。

市といたしましても今回、多額の費用が必要になるわけでございますが、今回、組合であります地権者の皆様からも減歩率が50%と、具体的には御自分が持っていらっしゃる土地の半分をこの事業のために提供をいただいております。また、冒頭、部長のほうで申し上げましたとおり、市街化区域内の長年の懸案でありました大規模の未利用地ということでここがなっておりますので、今回の事業によりましてここが解消でき、今後、健全な市街地の形成や定住促進が期待できると考えておりますので、御理解のほどよろしく願いいたします。

説明、以上で終わります。

○委員長（山下浩史君） ありがとうございます。

これについての質疑とか質問ありませんか。

○副議長（岡崎達義君） ちょっと1点。

○委員長（山下浩史君） はい、岡崎委員。

○副議長（岡崎達義君） これ多額の費用をかけて区画整理するわけなんですけど、来年度ぐら  
いからまた消費税が上がりますよねえ。3年後には消費税10%になるっていう予測があるんで  
すが、ほとんど入ると思います。そういった場合、区画整理して売れるっていう方向性はある  
んですか。ただ、つくってみるだけでほったらかしっていうことになりかねないんじゃないか  
なと思うんですけど、そこのあたりの見通しはどうなんですか。

○都市計画課長（塩見 誠君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 塩見課長。

○都市計画課長（塩見 誠君） 今回、区画的には98区画を予定をしております。その約半分  
につきましては保留地ということで、今回、事業を推進するに当たりまして代行業者の制度を  
とります。業者の方が代行してするということになりますので、この保留地の半分についまし  
てはその代行業者が積極的に販売すると。あと、残りにつきましては、それぞれの地権者の所  
有ということになります。所有者につきましても現在のところ販売の思いがあるというような  
方もいらっしゃいますし、ない方につきましてはこの代行業者とか不動産屋さんにお願いま  
して販売をする予定にはさせていただいております。

以上です。

○委員長（山下浩史君） 岡崎委員。

○副議長（岡崎達義君） 確かに、代行業者が一生懸命販売には携わってくれるんだと思うん  
ですけれども、桜が丘なんかでもかなり区画があいてるんですよ。なかなか売れないんです  
よ。年間100軒以上の空き家も出てるわけなんですよね。そういうような状況で区画を98区画  
もつくって、本当にこれ売れるのかなと。そら10や15区画ぐらいはすぐに売れると思いますけ  
れども、あとのものを幾ら代行の業者を頼んでも、消費税も上がってくるそういう状況の中  
で本当に売れるのかなと。そういう見通しを立てた上でこういう多額のお金を使って本当にいい  
のかと。見通しはどうなんですか、そこらあたりは。売れる見通しっていうのは確実にあるん  
ですか。将来的なことですから確実性っていうのが答えられないのかもわかりませんが、  
幾らかそういうのは持った上での区画整理っていうのをするわけですか。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 造成して販売できるのかという心配です。

確かに、その心配は市のほうでも持っております。そういったところで、この部分について  
は慎重に検討させていただいております。大手の住宅メーカーないし販売会社、そういったと  
ころと業者が十分に検討しております。検討の中には坪当たりの土地の単価であるとかそうい

ったところ、それから先ほど言われましたようにさらに消費税が上がるというようなことも加味をして検討して、現在は売れるであろうという見通しでスタートを切っております。そういったことで、地権者のほうにも御説明をさせていただいておりますので、今のところ売れるであろうという計算の上でスタートを切っております。よろしくお願ひします。

○委員長（山下浩史君） 岡崎委員。

○副議長（岡崎達義君） 売れるであろうっていうの、将来的なことですから推測でしかもう物が言えないんだらうとは思んですけど、あの地区、河本地区のほかの土地っていうのはどんなですか、売れ行きの状況っていうのは。結構要望、要求っていうんですか、あそこのあたりの土地に家を建てたいっていう、そういう要求なんかはあるわけですか。

○委員長（山下浩史君） 田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 委員長。今年度、狹隘道路をさくら祭典から河本のほうに拡幅の道路をつけております。そういった計画が立てられて道路が拡幅されるというようなことが情報が入って、新たな問い合わせ等がうちのほうに入ってきております。そういったことで、整備をすることによって宅地化が図られると、さらにはそういった状況が今見えてきたというところであります。

○副議長（岡崎達義君） これ以上言ってもあれですから、よろしいですわ。

○委員長（山下浩史君） 他に質疑はありませんでしょうか。

○委員（治徳義明君） はい。

○委員長（山下浩史君） はい、治徳委員。

○委員（治徳義明君） 河本の区画整理の件ですけども、それこそため池の下ですよ。今後、きちっと南海トラフとかそういった地震に対しての説明がきちりできるんでしょうか。

○委員長（山下浩史君） 田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 現在の岩田大池については、老朽化、それから漏水等の調査はしております。そういったことで、結果としたら老朽化ため池、それから漏水ため池ではないということで判断をしております。ただ、相当の貯水量を持っております。したがって、現在、堤防を補強するような形で盛り土を計画をしておるのが1つ。それから、非常に受益地が減っております。そういったことから、今の貯水量を下げる検討に入っております。ただ、受益地がありますので、下流域の行政区と今後、協議をして、少しでも貯水量を少なくする等の取り組みをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（山下浩史君） よろしいか。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（山下浩史君） ないようですので、次にほんなら移ってください。

協議事項は以上ですかね。

それでは次は、産業振興部のほう。建設のほうの……。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 25年度事業については以上です。

○委員長（山下浩史君） そいじゃあ、続きまして産業建設のほうお願いします。

はい。

○農林課長（若林 毅君） 農林課、若林です。

○委員長（山下浩史君） 若林課長。

○農林課長（若林 毅君） それでは、その他ということで農林課のほうから御報告させていただきます。

本日お配りしております産業振興部の資料の1ページをお開きください。

まず、アライグマ、ヌートリアの捕獲従事者講習会でございます。

赤磐市では、昨年度から農作物への被害を及ぼす鳥獣のうち外来生物でありますアライグマとヌートリアに限り、わなの免許がなくても市が行う講習会を受講することにより捕獲ができるというようにしております。本年度も6月31日に吉井会館で、7月17日に赤坂健康管理センターで講習会を開催いたしました。87名の方に受講をしていただきました。受講者の方には捕獲従事者証を交付しております。市内におけるアライグマにつきましては、死骸が発見されたり写真撮影をされたりということで、今後はアライグマの捕獲に向けた新たな取り組みが必要だろうということで現在、検討をしております。

次に、有害鳥獣による被害状況の調査でございます。

市としてはこれまで被害状況について調査をしてきておりませんでした。今後の有害鳥獣対策を図るために、被害状況調査を実施したいというふうに検討しております。自治連合会のほうに対しこの調査の理解と御協力をお願いし、全市エリアで取り組みたいというふうに検討しております。調査時期につきましても、自治連合会のほうと協議していきたいというふうに思っております。

それで、2ページのほうに調査票、現在のまだ案でございますが、つけさせていただいております。この調査票では被害の発生場所であるとか被害を及ぼす鳥獣の種類、また被害作物はどんなものか、被害面積はどれぐらいあるかというようなことのほか、防護柵に対する設問なども設けまして調査をしたいというふうに考えております。まだ案の段階ですので、もう少し内容につきましては検討して実施したいというふうに思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上です。

○委員長（山下浩史君） 今、協議事項の2番目に、その他の分に入っておりますので、申しわけありません。その他の部に入っております。

引き続きしていくところですが、ここで少しだけ休憩をとりますので、15分からということにしましょうか。15分まで休憩とします。

午前11時4分 休憩

午前11時15分 再開

○委員長（山下浩史君） 休憩前に引き続きまして会議を開きます。

次は、どこじゃったかな。花火大会ですかね。

○商工観光課長（奥田吉男君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） はい、奥田課長。

○商工観光課長（奥田吉男君） 先ほどの産業振興部の資料の3ページをごらんいただきたいと思えます。

今年度も第8回赤磐市花火大会の開催を予定いたしております。大会の開催に当たりましては、安全でスムーズな大会の運営を行うべく、実行委員会、それから警察等の関係機関、それから警備会社、花火業者含めて対策を行っております。主催は赤磐市商工会、それから観光協会、それから熊山地区の区長会、それから赤磐市で構成します実行委員会を主催といたしております。日時は8月10日土曜日、天候都合により順延の場合は8月11日日曜日に開催をいたします。内容につきましては、6時から8時10分まで郷土芸能及びステージの進行で行います。実際に花火大会のほうは8時10分から9時までの予定で行います。

今年度につきまして昨年度よりちょっと変わっておりますものが、6月中旬から実行委員会のほうで話が出まして、一部、昨年、市内企業のほうに協賛をお願いした経緯はあったんですけど、赤磐市の市民の花火大会とすべく、各市内企業のほうに協賛のお願いをしていただいております。その協賛をしていただく業者につきましては、8月の前半に折り込みチラシをする予定の花火大会の折り込みチラシの裏面のほうに協賛企業について掲載する予定で行っております。内容についての詳細は、その次のページのチラシのほうをごらんいただきたいと思えます。

来賓案内等に関しましては、例年の国会議員、県会議員、市議会議員、岡山県、岡山東農協、河川事務所、消防団等にあらかじめ来賓の御案内はいたしております。

御説明は以上です。

○委員長（山下浩史君） これについて何か質疑はありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（山下浩史君） ないようですので、なければということで、一応これで全部終わったかな。

部長どうしたん、帰ってきてねえん。

○上下水道課長（荒島正弘君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） はい、荒島課長。

○上下水道課長（荒島正弘君） その他のほうで、建設事業部の建設部門の9ページ、資料、見てください。

公共下水道の山陽処理区の事業認可区域の変更について御説明のほうさせていただきます。

まず、図面でピンクの線を引いとりますが、こちらの左側が山陽処理区になつとります。へえで、右側のほうが桜が丘東処理区でございます。今回、区域変更は左側の山陽処理区を対象にしております。

まず、緑色の線で囲んでいるところが現在、認可計画区域でございます。その中で、黄色に着色しているところは下水道の整備済みとなつておるところでございます。黒の着色になつてるところが認可計画区域ではございますが、まだ事業着手がなされてないところなんです。赤の線で囲んで無着色のところは全体計画区域でございます。認可計画区域に入っていないと、国庫補助事業として事業のほうできません。今回、認可計画区域の整備率は今現在、約79%でございます。内容につきましては、山陽団地が104ヘクタール、桜が丘西が273ヘクタール、旧山陽町が176.4ヘクタールで、553.4ヘクタールが整備済みとなつとります。早期に事業が完了するよう努力はしておりますが、なかなか思うように進んでないのが現状であります。今回の変更につきましては、既認可区域の期間の延長と区域拡大が対象となっておりますが、いろんな状況を踏まえて現在、準備を進めております。区域が決まり次第、当委員会のほうに御報告させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、図面の右側の桜が丘東処理区ですが、桜が丘東浄化センターにつきましては平成19年度に公共下水道として位置づけまして、赤磐市に大和のほうから移管されましたが、団地開発時に建設され、老朽化してきているため、大規模な改築、修繕が必要な状況になっております。今後、廃止も視野に入れた処理区の再編に関する検討が急務となってきております。現在、統廃合を含めた比較検討を行つておるところでございますので、これも決まり次第、当委員会のほうに御報告させていただきますと思ひております。

上下水道からは以上です。

○委員長（山下浩史君） はい、田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 前回の委員会の中で岡崎委員のほうから社会資本整備総合交付金事業について説明をということと、それから効果促進事業についても説明を願うということでお聞きをしております。

本日の資料の6ページのほうに国土交通省が出しております交付金の概要ということで、この資料を使つてちょっと説明をさせていただきます。

社会資本の整備総合交付金につきましては、平成22年度に創設された制度でございまして、地方公共団体に向けた個別の補助金制度を、そういった一つ一つの制度を交付金制度で一括して整備をできるというような特徴を持っております。この交付金につきましては、赤磐市等の地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫することによって総合的な整備が図られるというようなものが大きな特徴であります。この6ページの真ん中あたりで図示をしておりますのが従来の補助金制度、道路でありますと道路単独で補助金を請求してヒアリングを受けて採択

を受けてというようなことになっております。それをこのいろいろな事業を一括して整備をセットでやる、できるというようなことが特徴であります。

この制度をわかりやすくというのが、赤磐市でありますと昨年完了しました赤坂地域の堂講川、これが1つであります。これは、岡山県が岡山県のある一定の地域の県道を整備するというので、この社会資本を計画をしております。そういった中で、赤磐市もその計画の中に入るということが今回の特徴でありました。本来ならその他の河川で赤磐市が管理しないといけない河川、これは補助金等が今までなかったんですけど、岡山県が計画する中に堂講川の、本来は道路なんですけど、県道を整備するんですから。だけど、堂講川という河川もここで整備できるというようなことで、これが効果促進事業にのっとってできるような特徴がありました。したがって、赤磐市にとってみたら非常に有利な事業でありました。このストーリーとしたら、あそこに御津佐伯線が走っております。それから、市道も走っております。堂講川が氾濫したことによって県道も市道も寸断されると大変県道も困る、市道も困るということで効果を狙ったものが今回の堂講川の整備と、そういったことの特徴であります。そういったことが今回の社会資本の整備交付金事業というものであります。

そういったことで、赤磐市だけでなしに隣の市町村と一緒に、それから岡山県と一緒に整備できるというようなのが今回の特徴であります。そういったことで、今回の下水道につきましてもそういったことを、本来なら国庫補助部分と一般財源と、一般財源の部分に効果促進事業が使えないかということで今、研究をして県と協議を進めるところです。

以上です。

○委員長（山下浩史君） 説明が終わりました。

ただいまの説明につきまして質疑があるようでしたら。

はい、岡崎委員。

○副議長（岡崎達義君） 今、説明していただいてようわかったんですけども、下水道事業をこれを使ってできればやりたい。その場合、今ちょっとおくれてる部分とかまだ手をつけてない部分をこの事業を使って、交付金を使ってやるんだということなんですか。

○委員長（山下浩史君） 荒島課長。

○上下水道課長（荒島正弘君） この効果促進事業を使って未着手のところをやるんじゃなくて、この下水道という効果促進事業というのは今までやっとなんですが、補助事業の対象になるところと全く単独でやらなきゃならんという部分が1路線の中にも1区域の中にあります。今まで補助対象区域と単独分がございまして、単独分については市が全額負担したんですけど、この単独分がこの効果促進で補助対象区域になりますよということなんで、そうすれば市の持ち出しがその区域では少なくなるので、それをもって次の区域にもいけるということで、市の持ち出しが今までよりもこの効果促進事業を使って少なくなるということございまして、これをもって未着手のところを全てやるというんではございません。

○委員長（山下浩史君） よろしいか。

金谷委員。

○委員（金谷文則君） ああ、どうぞどうぞ、よろしいよろしい。

○委員長（山下浩史君） 岡崎委員。

○副議長（岡崎達義君） ぼやっとしかわかってない。

○委員（金谷文則君） ちょっと今の下水のあれに関連して……。

○委員長（山下浩史君） はい。

○委員（金谷文則君） 先ほどの岩田地区のあれは、ここの地図の中で大体どの辺になるんですか。ようわからんのじゃけど、認可、黒の枠の中に入ってる地域になるんか黄色のところになつとるか、これから下水道整備、27年度か、何かするようになってました……。

○委員長（山下浩史君） 荒島課長、ざっと……。

○委員（金谷文則君） どの辺かわかりますか、今度の……。

○委員長（山下浩史君） 年数的なスケジュール的なようなもんが簡単にわかれば、ある程度……。

○委員（金谷文則君） 岩田地区と……。

○委員長（山下浩史君） 言われて、それから今言ようられることについても教えてください。

○委員（金谷文則君） それと、市長が赤坂のほうを一生懸命やっちゃうでという下水道の計画があるんなら、それはどの辺にいつごろこれが黒い色に変わってくるのか、ちょっとわかってるところで教えていただきたいんですけど。

○委員長（山下浩史君） はい、荒島課長、答弁求めます。

○上下水道課長（荒島正弘君） まず、河本地区の場所になるんですが、これで言いますと既に黄色になつとるエリアになると思います。といいますのが、今現在は農地でありますので当然、下水の計画はございませんが、この黄色の中のが宅地化になればエリア的には認可区域の中に入りますので、補助事業として持っていきますので対象になります。

それから、この黒のところの事業なんですけど、ざっと残つとる面積が146ヘクタールほどございます。今現在、赤磐市の財政計画で下水のほうで年間支出予定が4億5,000万円ほどございまして、約6年間ほどかかる予定でございまして、この黒を全部消化しよう思うたら約6年間はかかるんじゃないかというふうに思っております。

それから、赤坂に向けてのざっとこのエリアなんですけど、今、図面の中央、小さい字なんですけど、五日市幹線という黒の線が途中でとまつとると思いますが、これの今の延長、ちょうど町苧田ぐらいのところまでがどうかというのを今現在検討しとりまして、正式にどこまでを入れるかというのは今検討中ではございますが、要するにこの幹線沿いをエリア拡大しようかなというふうには思っております。

以上です。

○委員（金谷文則君） ありがとうございます。

○委員長（山下浩史君） 金谷委員、よろしいか。

○委員（金谷文則君） はい。時間も来たんで。

○委員長（山下浩史君） 岡崎さん、どんなですか。

○副議長（岡崎達義君） もうよろしい。

○委員長（山下浩史君） よろしいですか。

○副議長（岡崎達義君） よろしい。

○委員長（山下浩史君） ほかにないでしょうか。それでは、他にないようですので、こちらのほうから……。

○委員（金谷文則君） その他で、私のほうからその他をやってもいい。

○委員長（山下浩史君） もちろんそうです。ちょっと待ってください。

はい。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） はい、委員長。

○委員長（山下浩史君） 田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 濟いません。市営住宅の関係でちょっと報告をさせていただきますと思っております。

市営住宅、いろいろ問題を起こしております。まずは、市営住宅の使用料滞納の問題です。これも大きな問題になつてきます。それから、市営住宅の周辺環境ということで、非常にごみが散乱していたり草ぼうぼうであったりというようなところがあります。それから、条例でうたわれとります適正な住宅の使用がなされてないというようなところも非常に大きな問題になっております。そういったことで、市民の方からも御意見をいただいとりますし、入居者の方からも御意見をいただいとります。

そういったことで、今後、市営住宅についてはある程度の方針を出して、まず文書による指導、それから戸別の指導、それからできるならばその団地ごとの代表者の方と協議を進めるなり実施をしていきたいと思っております。それから、滞納問題につきましても、法的な手法を用いて滞納整理をやりたいと思っております。特に、25年度につきましてもそういったことを強化をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

以上です。

○委員長（山下浩史君） ありがとうございます。

それでは、執行部のほうからのその他の件についてはもうないでしょうか。

こちらの委員さんからのその他の件について。

○委員（金谷文則君） はい。

○委員長（山下浩史君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） 濟いません、ちょっと3つほどしたいんですが、一つは前、委員会のときに我々の所管の外郭の補助金を出してる協会とかいろんなところについての決算なり事業なりの報告をちょっと一応いただきたいという願いをしたと思うんですが、それがちょっとどういうふうになっているのかということ。

それから、商工観光課の中の観光協会の事業として今回、花火大会のお手伝いとかそういうこともやってると思うんですが、実際その中の部会だとかいろんな活動をする計画になってますけども、その辺がどういうふうな今、動きになってるのかをちょっと知らせていただきたい。

それからあと、先日、赤磐市の経営生産対策推進会議というのがあって、それに出席させていただいたんですが、赤磐市としてどういう農業政策をやっていくのかというのが何かはっきりわからない。そのままそれぞれの代表の方がちょっと話をしたり、事業計画というほどのものでもない簡単な説明で終わっちゃって、どういうふうにみんなが協力して赤磐の市内の農業、この経営生産対策会議っていうのが農業関係ですけども、やっていくようにしたらいいのかというのがちょっとわからなかった会議でした。私も毎回出てるんですけど、やっぱり特にTPPとかそういうふうな今みんなが気にしてる大変大きな岐路に立ってる農業なんで、そこを赤磐市としてどういうふうに切り抜けていくんかとか、どういうふうな指導をしていくんだというようなことが示されて、それに対してみんながどういうふうにするのかというふうな話が出るのかなと思ったんですけど、全体的な市の政策含めてどのようにお考えがあって進めていくのか、捉えるのか、またこれ今後ちょっと考えていかなきゃいかんとかっていうのがあればお知らせいただきたい。

その3つをお願いしたいと思います。

○委員長（山下浩史君） 答弁を求めます。

馬場部長。

○産業振興部長（馬場広行君） それでは、決算書等々、外郭団体等の決算書等の提示いただきたいというような御質問いただいとりまして、まだ未提出になつとります。

それぞれの団体等で総会等もあり、決算ができつつあります。どこまでをお出しすりゃあええのかというのがちょっと私らのほうもわからんのですけれども、主なものについてはちょっときょう用意できておりませんので、次回、御報告をさせていただけたらと思います。

それから、経営生産の協議会の関係でございます。

確かに御指摘のとおりで、単なる25年度の事業の羅列の説明というような状況で、さあ、それじゃあ市がどうしてこうというようなのが全く示されていないというような状況で、金谷委員さんも意見を言おうにも言えんというような状況であったんだと、が現実だったと思います。その辺、私どものほうも非常に反省をしとります。TPPの関係についてはちょっとまだ情報がないんで、どう市が取り組むかというのはわからない部分多いですけども、それ以外

の担い手の関係であるとか荒廃地の問題であるとか等々、いろんな問題が残っております。これらにつきましては市の方針もう少し明らかにさせていただいて、中・長期、あるいは長期までいかんでも中期の目標を定めた中でまずはそれを定め、それぞれの年度がそれに基づいて何をやるのかということで事業を組み立てて予算をします。ですから、説明でもこういうことでやっていきますよ、だから今年度はこういう事業をそのためにやりますよということを明確にするような会議にすれば、また皆さんの御意見もいただけるし、次年度についての意見もいただけるんだと思いますので、今回の協議会、非常に申しわけない会議になったんですけれども、そういうふうに組み立て直しをさせていただきたいというふうに思っております。

それから、観光協会につきましては、課長のほうから答弁をいたします。

○委員長（山下浩史君） 奥田課長。

○商工観光課長（奥田吉男君） 観光協会の内容につきまして、総会のほうで検討いたしました内容で部会の活動につきましては、倉敷古道という形ものが赤磐市内を通っております。その内容について社会教育課のほうで一部、専門の方に調べていただいとる内容がございますので、そういつて調べていただいた内容を会員、それから市民の方含めて講演会、勉強会という形で会のセットをするように講師の方と日程調整を進めております。

それから、総会のほうでも出ましたけど、うちの観光協会の実態として他の観光協会の活動状況なんかも見てみようという提案がございましたので、日程調整をしております。この内容につきましては、常任委員会のほうで規約の一部改正含めて検討する予定にいたしております。

以上です。

○委員（金谷文則君） ええようにそれぞれよろしくお願ひしたいと思ひますので。

以上です。

○委員長（山下浩史君） もう一件ありゃへなんだかなあ、答弁、なかったかな。

○委員（金谷文則君） 3つだけ。

○委員長（山下浩史君） 3つだったかな。あ、そうか。

ほかにはありませんか。

大体済んだんですが、1つだけ、この下水道の進捗状況ですねえ。これたしか結局、特別委員会をこしらえて委員の方がやろうということを決めたわけですね、議会の中で。ほんで、今見たら、多分待たられる方がいらっしゃると思うんじや。それから、今、進みぐあい、荒島課長が今言われたのは6年ほど、この黒いというんか、ちょっと緑の濃いやつですねえ、ここがやるのに6年ぐらいかかるであろうとつていうようなことで、ある程度、市民の方にスケジュール的なものを示してあげたほうがいいんじゃないかと僕は思うんですが、その辺は執行部のほうはどういうに考えられるんかということです。

それから、現在、合併槽とかそういうなもんで対応しとられる方もたくさんいらっしゃると思

うし、これから先もそういうことが起きるだろうから、これ結構黒いところもたくさん残ってるし、点々と残ってるし、これから先に延ばしていくのには、先ほどの課長の説明では町荻田あたりの辺をとこういうて言われたけど、辺と言われてというてもそうでない地域の方もいらっしゃるわけじゃし、じゃからその辺をきちっとしたタイムスケジュールでなくてもいいけれども、大ざっぱなものでいいと思うけど、少しでも示してあげたほうが親切というんか、それが責任じゃと思うんじゃ、行政のほうの。というふうに思いますが、いかがなものでしょうか。

田中部長。

○建設事業部長兼建設課長（田中富夫君） 委員長御指摘のとおり、ある程度の下水道計画というのは市民の方にお示しをする、そういった中で市民の方はいろいろな計画を立てられると思っております。そういったことで、まずもって今年度、25年度に事業認可の区域を検討する中である程度の方向性、実施計画が決定できるものと思っております。そういったことで、まず認可区域の決定を優先させていただきまして、その後そういったことで市民の方にもお知らせをしていこうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員（金谷文則君） ごめん、そこまでいくなら。

○委員長（山下浩史君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） 先ほど荒島課長のほうがおっしゃっとられたのが、6年少々で黒いところがいけて、次の赤いところっていうお話だったんですけど、たしか前の選挙までの委員会では14年ぐらいかかると、そしてそれからいくとしても赤坂ですよという話をたしか委員会でされとったと思うんですが、そこはあえて言わなくてもいいかなあと思って黙ってたんですけど、どんなんでしょうか。

○委員長（山下浩史君） 荒島課長。

○上下水道課長（荒島正弘君） 済いません。6年というのは、この黒いところを完了さすのに6年かかります。今現在、継続中のところがございまして、これが3年かかるので合計9年は、この黒いところが全て終わるには今からいうたら9年後ぐらいになる予定です。

○委員（金谷文則君） わかりました。

○委員長（山下浩史君） わかりました。

よろしいか、金谷さん。

○委員（金谷文則君） はい、結構です。

○委員長（山下浩史君） ほかにはないですか。

はいじゃあそれじゃあもう一件、こちらのほうからあるんですが、決算がありますので、今度、決算審査特別委員のほうをこの委員、メンバーの中から2名選任せなあかんということがありますが、議長と副議長がそれ抜けますので4人の中から2名ということになりますが、どんなものでしょうか。

金谷さん、どんなですか、やって、前回やっつけられるっけ。

○委員（金谷文則君） ずっとやらせていただいとりますんで、委員長と副委員長でやっていただいたら一番ええんじゃないかと思います。

○委員（治徳義明君） ずっとやっていますんで……。

○委員長（山下浩史君） ずっとやっています。そうだった。

○議長（小田百合子君） だって、4年以下でしょ。

○委員（金谷文則君） やっつけられん……。

○委員（治徳義明君） 3年以上やらせていただいとんで……。

○委員長（山下浩史君） ということになります。それでは、よろしいか、私と、ほいじゃあ副委員長で。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（山下浩史君） そういうことで、その件については私と、ほんじゃあ副委員長でやりますので、よろしくをお願いします。決定しました。

他にないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（山下浩史君） 他にないようですので、以上をもちまして産業建設常任委員会を閉会したいと思います。

閉会に当たりまして、副市長より御挨拶を願います。

○副市長（安井栄一君） 委員長。

○委員長（山下浩史君） 安井副市長。

○副市長（安井栄一君） 第6回の産業建設常任委員会、皆さん方には慎重ないろいろと御意見をいただきまして、ありがとうございました。

下水道事業につきましては、本当にこれは多大な財源が必要ということで、まだまだ未普及地域の解消に向けて市長会でも今度ありますので、社会資本総合交付金の充実につきましてより一層、国のほうにも要望を強く言って、できるだけ早い時期にそういった未普及地域が解消できるように今後も頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。きょうは大変御苦労さまでございました。

○委員長（山下浩史君） ありがとうございました。

本日は大変御苦労さまでございました。

これで本日の委員会を閉会としたいと思います。

どうもありがとうございました。

午前11時46分 閉会